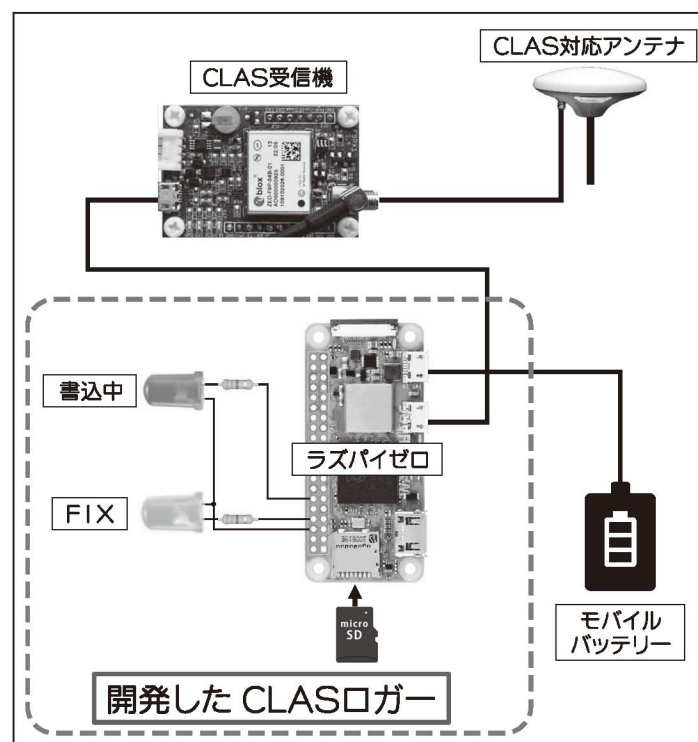
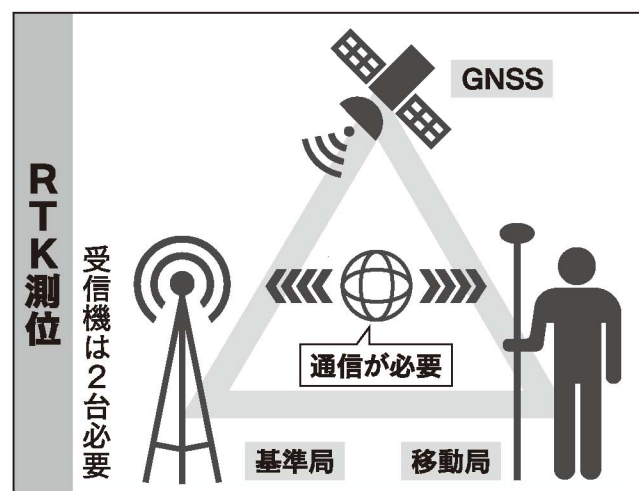


災害現場で緊急の測量が必要なら「CLAS」



CLASとは

日本版GPSの「みちびき」を受信して、センチメートル精度の位置情報を取得できる無料のサービス。田中教授の研究室では「インターネットやスマートフォンがつながりにくい災害現場」も想定しながらCLASの活用策を探り、関連システム等の開発などに取り組んでいる。

なぜCLAS?

- ・災害地では基準点流失はじめ、インターネットが繋がらないことも多い
- ・ネットワーク型であるRTK-GNSSが使えない状況も

基準点の設置にCLASを用いれば

- ・対空標識を設置してドローンで空撮
- ・トータルステーションの精度1cmに比べてCLASは精度10cmだが、調査にかかる時間・人員のコスト削減に大きく寄与。被災直後から詳細な測量が可能となり、復旧計画の立案や施工に必要な情報を効率的に取得できるようになる。さらに、短時間で広範囲の測量が行えるため、復旧計画の検討も机上で行うことができる。

各測位システムの特長

- ・CLAS - 精度6cm インターネット・通信料 不要
自動運転にも使われ始めており、スケーラビリティ（利用者や仕事の増大に適用できる能力）に優れる。
- ・ネットワーク型RTK - 精度1cm インターネット・通信料 必要



そんなときは



「傘さし地形測量」
少々雨、日差し強い日でも測量が可能。見た目もユニークだ。



システムのさらなる機能向上へ
大学内でも学生等による研究・分析が
続く



研究室ではCLASの精度検証とソフト開発に取り組み、ネットワーク型RTK-GNSSのように手軽に測位できる「CLASロガー」を開発。インターネットや基準局が不要、重いパソコンを持ち歩く必要もなく、データは現場でダウンロード可能と現場作業の効率を高める。

「CLASロガー」で測位